

指導者：〇〇〇〇 (T1) 〇〇〇〇 (T2)

〇〇〇〇 (T3) 〇〇〇〇 (T4)

〇〇〇〇 (T5) 〇〇〇〇 (T6)

1 単元名「自分の役割を果たし、協力して製品をつくろう」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本校中学部の作業学習では、木工班、手工芸班、ハンドメイド班そして、紙工班の4つの作業班があり、毎週火曜日と金曜日の3時間目に作業学習を行っている。

本作業班では、1年生2名(男子1名、女子1名)、2年生9名(いずれも男子、うち重複学級の生徒2名)、3年生5名(男子2名、女子3名)の計16名で構成されている。主な障害は知的障害であるが、

(生徒の障害については省略)

———など、様々な障害やそれに起因する背景を有する集団である。コミュニケーション面については、自分の気持ちや考えを言葉で伝えられる生徒、簡単な2～3語文を言語で表出できる生徒、表出言語はないが発声や身振りなどで伝えようとする生徒など、幅広い実態である。作業学習への参加態度については、集中力や体力に個人差があり、活動の途中で離席してしまったり、手を止めてしまったりする生徒も見受けられるが、ほとんどの生徒が担当する仕事に時間いっぱい集中して取り組むことができている。基本的技能については、カット器具を扱って型を抜く加工、パルプ液の計量や紙を漉く木枠への流し込みなど力の加減を要する紙漉き、ミキサーのセッティングとタイマーに応じたボタン操作を要するパルプ液づくり、ハサミを使ったカット作業、手指を使ったラミネートはがしや紙ちぎりなどいずれも手指の巧緻性をはじめとする様々なスキルが必要となる。そのような中でも生徒各々には得意な作業内容があり、補助具を使用したり教員の支援を受けたりしながら取り組むことができている。

(2) 単元観

本生徒たちは、高等部進学後には作業学習は勿論のこと現場実習など将来の社会で働くために必要な学習や体験が控えている。そのために、「中学部の段階から作業学習をはじめ職業・家庭の職業分野を中心に生徒の働く意欲を培うこと、将来の職業生活や社会自立に向けて基礎となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要」と学習指導要領にはある。この点を踏まえて、本校中学部では進路ガイダンス、進路体験学習、高等部の校内実習の見学・体験など作業学習以外にも“働く意欲を培う”ために進路に関する学習を年々充実させている。加えて、働く意欲を培うことのほかに作業班という集団のなかで「仲間と協力する」「自分の役割を果たす」といった力を育むことはキャリア教育の視点からも重要であり本単元のねらいとしている。

作業学習において生徒の関心や意欲が高い事柄は文化祭での製品販売である。本校の文化祭は毎年11月中旬に学校をあげて一大イベントとして開催してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症等により過去2年間は対面での販売会ができていないため、在籍している生徒たちは対面での製品販売の経験が無い。しかし、今年度は保護者を対象に事前に製品の注文を受け付けて、授業参観日に対面での販売会を行う予定である。そして、年度末には売り上げを発表し、楽しみにしていたお給料を受け取ることができる。次回以降の単元では、販売会に向けて事前学習を行い、改めて“製品づくり→製品の販売→お給料の支給”といった“自分たちの作った製品がどうなっていくのか”といった流れについて学習していく計画である。

本作業班の製品は、「メッセージカード」「コースター」「オイルキャッチャー(食用油の処理に使用)」など、牛乳パックをリサイクルした紙で製作される。材料は給食で提供される牛乳パックを使用するなど

安易に入手ができる。作業工程は、①牛乳パックの前処理（パックのカット、ラミネートフィルムはがし、紙ちぎり）、②パルプ液づくり、③紙漉き、④製品加工となっており、生徒の実態、作業能力に応じてさらに工程を細かく分けて設定することもできる。なお、各工程では、紙漉き枠、ローラー、ハサミ、カッター、ミキサー、型抜き器具といった様々な道具を正しく、安全に扱うための技能も必要となる。

本単元「自分の役割を果たし、協力して製品をつくろう」では障害の状態が多様ではあっても生徒の実態を踏まえて、適した補助具や個に応じた支援の方法を充実させることで安全に正しく道具を扱い、意欲的に作業学習に取り組めるものと考えた。分担制である紙工班では、自分の役割を果たすことは、協力することと等しく、一つの製品をつくる上で全員が作業工程に携わることができる。担当する作業工程に一生懸命取り組むことを通して「集中できた!」「作業がこんなにできた!」といったたくさんの「できた」の経験を重ねることで自己肯定感を高めることや働く意欲を身に付けることができると考え、本単元を設定した。

本単元では各教科「職業・家庭」の職業分野「職業生活」の「ア働くことの意義」「イ職業」の1段階、「数学（算数）」の「A数量の基礎」、「A数と計算」「Dデータの活用」の1～2段階、「国語」の「A聞くこと・話すこと」「B書くこと」の1段階、「美術」の「A表現」の1～2段階、等を組み合わせて関連させながら取り組む。

なお、中学部段階の内容を基本に取り組むが、生徒の実態によっては「国語」「数学」などは小学部段階を扱う場合がある。

（3）指導観

作業学習は、作業活動が学習活動の中心であることから、毎回繰り返しの活動が多くなる。よって、生徒が担当する作業工程は生徒の希望も踏まえてある程度、柔軟に変更できるようにすることで意欲や関心を持続できると考える。なお、障害の特性や強みを活かすため同じ作業工程に取り組む生徒も一部いる。

また、毎回の繰り返しの活動であっても「牛乳パックを○枚切れた」、「紙を○枚漉けた」など一人一人に目標シート（目標と成果を記録する用紙）を活用して成果が明確になるように“作業量の見える化”をする。授業の最後には、作業ノートに記入しながら担当の教員と一緒に振り返り（評価）を行う。生徒の実態別に3種類の作業ノートを使用して、「丁寧、集中、挨拶・報告、掃除・片付け」などの項目を評価したり、目標シートを貼り付けて目標の作業量が達成できたのかどうかを確認したりする。反省会の最後には工程ごとに取り組んだ作業量をグラフで示し、前回と比較できるようにするなど本時の作業の成果がどうであったかを振り返る。さらに、作業ノートを家庭に持ち帰り、授業の様子やその日の成果などの情報を保護者と共有することで、家庭でも褒めてもらえたり、製品の販売を楽しみにしてもらえたりするなど生徒や保護者にとって作業ノートのやりとりは効果的であると考えた。その他には、工程ごとに明確に区切った作業スペース、生徒の導線を考えたテーブルの配置、作業時間を示すタイマーの提示、個に応じた補助具の工夫など集中して作業活動に取り組める環境の整備（できる状況づくり）を進めていく。

更には、上述した条件が整備されても生徒にとって作業学習に取り組むなかで「難しいこと」「できないこと」は当然でてくる。その上で、「こんな時はこうすればいい!」「先生にお願いしよう!」「頼めばいいんだ!」と前向きに考えて支援を要求することで困った場面を克服できるようになってほしい。

そのために、必要となる報告をしたり支援を要求したりできるコミュニケーション能力を作業学習を通して養えるようにしていきたい。

3 対象とする生徒の実態

氏 名	生活全般の実態	単元に関する実態
A	基本的な生活習慣は自立しており、穏やかな性格である。初めての活動に尻込みしたり、動けなくなったりすることが年々減ってきて何事にも意欲的な姿が見られる。 太田ステージ：Stage○-○ ○期	紙ちぎりが得意で毎回好んで取り組んでいる。補助具の紙ちぎりシートのマスに収まる大きさに紙をちぎり丁寧に並べていくことができるようになってきた。
B	基本的な生活習慣は概ね自立しており、人懐っこくマイペースな性格である。発語は不明瞭ながら身振りを交えてコミュニケーションしようとする	ちぎった紙が、紙ちぎりシートのマスからはみ出てしまうこともあるが、マスを意識してちぎった紙を並べることができる。作業のペースは

	意欲的な姿が多く見られるようになってきた。 太田ステージ：Stage○	ゆっくりである。発語が不明瞭であることから報告等はタブレット端末を活用している。
C	重複学級に在籍し、歩行が不安定、てんかんを有する。基本的な生活習慣は支援を要する。人懐っこいく関わりたい気持ちから、テンションが高まり、友だちや教員を叩いたり、髪を引っ張ってしまったりするなどの衝動的な行動が見られる。 太田ステージ：Stage○	その日の体調により、眠かったり、ボーッとしたりして集中が持続しないこともある。紙ちぎりやラミネートフィルムはがしなど、教員の支援を部分的に受けながら落ち着いてゆっくりと取り組めることが増えてきている。

本時は、紙ちぎりを担当する生徒3名を指導の対象とした。

4 単元の目標

(1) 共通目標

- ①作業学習に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
- ②集団として協力しながら、作業に取り組む気持ちを育む。
- ③必要な場面で報告や連絡をすることや成果を振り返ることで課題に気付き解決しようとする力を養う。

(2) 個人目標

氏 名	単元に関する目標	教育支援プラン B の目標
A	- 補助具のシートを活用して、マス目に収まる大きさに紙をちぎることができる。 - 道具やちぎる紙を友だちに配るなど同じテーブルの仲間と協力ができる。 - 必要な場面で欠かさずに「紙ください」、「できました」と要求や報告ができる。	- 作業時間の流れや内容を知り、作業に取り組む。 - 時間内に決められた量の製品を丁寧に作成する。 - 挨拶、報告が定着する。
B	- マス目に収まる大きさを意識して紙をちぎって並べていくことができる。 - 作業後にテーブルの床下を箒ではいたり、塵取りでごみを集めたりと友だちと一緒に掃除ができる。 - 作業を勝手に終わらせず、「できました」と報告ができる。	- 一人で作業に取り組む。 「できました」、「てつだってください」など場面に応じて言葉やサインで報告や要求をする。
C	- 手元に並べられた紙を摘まんでちぎり、所定のトレイに置くことができる。 - 友だちと同じテーブルで、時間いっぱい担当する作業に取り組むことができる。 - 手元の紙がちぎれた際に近くの教員の肩をトントンと叩いて“できた”ことを報告したり、紙が必要な時に両手を合わせて“ください”の要求をしたりすることができる。	- 短い見通しをもち集中して取り組む。 - 報告や連絡を自分から出せるようにする。

5 指導計画

	授業目標	授業時数
1	作業工程を知り、各工程を一通り体験する。	8 時間
2	作業工程を理解し、担当する仕事に取り組む。	6 時間
3	担当する仕事を最後までやりとげ、協力をする。	10 時間（本時 4 時間目） 年間を通して
4	必要な場面で報告、連絡（支援要求等）をする。	
5	自分の作業を、作業ノートをもとに担当の教員と振り返る。	

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

主体的な学び

- ・生徒や教員の導線に応じた机等の配置や分けし作業スペースの確保、タイマーによる作業時間の提示など生徒に「分かりやすい」環境を整備する。
- ・作業工程のスキルを身に付けられるように実態や作業能力に応じて補助具や個別の支援を工夫する。
- ・これまでの作業経験で身に付けた知識や技能を活用して、生徒たち自らが準備、片づけを含めた授業の一連の流れに応じて主体的に活動できる状況を作る。

対話的な学び

- ・できたパルプ液を紙漉きに取り組む友だちに自ら手渡す（例）など、仲間同士のやりとりができるように意図的な場面を設定する。
- ・本時の取り組みについて発表の場を設定し、言葉でのやりとりが難しい生徒に対してはイラストカードを用いて感想を言語化したりするなど、個に応じた支援を工夫する。

深い学び

- ・目標シートの活用や前回の成果を振り返り、本時の目標数を生徒が自分で考え、選択や決定ができるような場面を設定する。
- ・これまでの作業学習で身に付けた知識や技能を活用して、取り組む作業に必要な工程の一連の流れを生徒自身（または仲間と一緒に）で動ける状況を設定する。

7 本時の構成

(1) 本時の目標

	本時に関する目標【観点】
共通目標	①自分の担当する作業工程や内容を理解し主体的に取り組むことができる。【知識及び技能】 ②必要な場面で報告や連絡をするなどコミュニケーションを取ることができる。【思考力、判断力、表現力等】 ③作業の準備から片づけまで一連の流れを部分的に友だちと協力して行うことができる。【学びに向かう力、人間性等】
個人目標	本時に関する目標【観点】
A	・紙をマス目に収まる適度な大きさにちぎり、マス目に沿って丁寧に並べることができる。 ※マス目の数が75マス、マス目の大きさが2×2cmの紙ちぎりシートを使用する【知識及び技能】 ・必要な場面で聞こえる声の大きさを要求や報告をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】 ・同じテーブルの友だちの要求に応じて自ら道具や紙を手渡してあげることができる。【学びに向かう力、人間性等】
B	・紙をマス目に収まる程度に小さくちぎることが繰り返しできる。 ※マス目の数が15マス、マス目の大きさが3.5×3.5cmの紙ちぎりシートを使用する【知識及び技能】 ・シート全てのマス目にちぎった紙を並べたら報告することができる。【思考力、判断力、表現力等】 ・友だちの出したごみを受け取ったり、集めたりするなど言葉がけを受けて協力して片付けることができる。【学びに向かう力、人間性等】
C	・手元に並べられた紙をちぎることを理解して、紙をちぎることができる。【知識及び技能】 ・近くの教員の肩をトントンと叩いて“できた”や“紙ください”と要求や報告をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】 ・同じテーブルで作業する友だちの様子を意識しながら自分の担当する作業に取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 展開

配時	学習活動	指導・支援の手立て 及び 指導上の留意点 ○学習内容 ●教員 T1 の支援 ☆評価の観点				備考
		全 体	A	B	C	
導入 8分	- 入室し、持ち物を所定のかごに置く。 ～～～始めの会～～～ - 挨拶をする。 - 出欠確認をする。 - 本時の作業内容を確認する。	○「失礼します」と言う、または会釈して入室する。 ●入口ドアに挨拶のイラストを掲示する。一緒に入室し、挨拶の手本を示す。 ○持ち物（作業ノート、筆箱、水筒など）を所定のカゴに置く。 ●忘れている生徒には言葉がけをする。 ●身だしなみの確認をするよう言葉がけをする。 ○班長の号令に応じて「お願いします」と挨拶をする。 ●起立の際に良い姿勢がとれるように言葉がけをする。 ○T1に呼名されたら返事をする。難しい場合は、挙手や身振りをつけた表現などで応じる。 ●分かりやすいように生徒の目の前や近くまで行って視線を合わせて呼名をする。(T1) ○本時の授業の流れや自分が担当する作業工程などを確認する。 ●ホワイトボードに授業の流れ、担当する作業工程の分担表を分かりやすいように顔写真入りのネームカードを使って一覧にして視覚的に示す。 ☆主体的に挨拶や呼名の返事ができたか。				- 挨拶の掲示物 - 名札カード - カゴ - 分担表 - タイマー - 各種トレイ
前半 22分	座席の移動、担当する作業工程の準備をする。	●班長へ「作業開始」の指示を出すように伝える。	○必要な作業道具の準備をする。 ●必要な道具一式を写真で提示して準備するように言葉がけをする。 ○ちぎる紙を生徒Bに配る。 ●ちぎる紙を配るよう依頼する。 ☆紙を友だちにも配ることができたか。	●トレイと紙ちぎりシートを手渡しして、場のセッティングするように言葉がけをする。 ○生徒Aからちぎる紙を受け取り、お礼を言う。 ●お礼を忘れていたら言葉がけをする。 ☆机上のセッティングができたか。	●トレイと紙ちぎりシートを手渡しして、一緒に場のセッティングする ○T1からちぎる紙を受け取る。 ☆教員と一緒に説明や指示に応じてセッティングできたか。	- 各種紙ちぎりシート - 目標シート - シール - ちぎる紙
休憩 10分	各自が作業工程に取り組む。	●休憩までの残り時間をタイマーで提示する。	○紙ちぎりシート“○枚分”と目標を考えて、T1に報告する。 ●目標シートを示し、今日の目標を一緒に確認する。 ☆目標を確認できたか。	●今日の目標を紙ちぎりシート10枚と決めて、目標シートに示す。 ☆目標を確認できたか。	●「5回ちぎれたら目標シートにシールを貼るよ」と言葉がけをして意欲を高められるようにする。 ☆言葉がけに応じられたか。	
後半 15分			○紙ちぎりに取り組む。 ○マス目に収まる大きさを意識して紙をちぎり、シートに並べていく。 ●適度な大きさにちぎれている時は「上手にできているね」と称賛する。 ○シート1枚分紙をちぎり終えたら「できました」と言葉で報告をする。 ☆紙をマス目に収	○紙をマスに収まる大きさに小さくして、マス目に並べていく。 ●適度な大きさにちぎれている時は「上手にできているね」と称賛する。 ○シート1枚分のマス目にちぎった紙を並べられたらタブレットを使用して音声を出して「できま	○T1が手元に並べた5枚の紙を1枚ずつ両手で摘まんでちぎることを繰り返す。T1が目標シートに丸をつけるところに注目する。 ●切り込みを入れた紙を5枚ずつ手元に並べる。目標シートを指し示し「次はここだよ」と言葉がけをして称賛	

			まる大きさにちぎり、マス目に沿って丁寧に並べられたか。 ●報告を受け「よくできました」と称賛する。 ●目標シートの作業量の数字にチェックをして生徒 A と途中までの成果を確認する。 ○ちぎり用の紙が無くなったら「紙ください」と言葉で要求する。 ●紙を要求できたら「すごい、がんばってるね」と言葉がけで称賛して紙を手渡す。 ☆必要な場面で報告や要求を伝えることができたか。	した」と報告をする。 ☆紙を小さくちぎり、マス目に収められたか。 ☆シート1枚分ちぎり終えたら報告ができたか。 ●報告を受け「よくできました」と称賛する。 ●目標シートの作業量の数字にチェックをして生徒 B と途中までの成果を確認する。 ○ちぎり用の紙が無くなったら「紙ください」と生徒 A の方をトントン叩いて要求をする。 ●紙を生徒 A に要求できたら称賛する。 ●集中力が切れて離席したり、手が止まったりしたら「もう少しがんばろう」と作業に戻るよう言葉がけをする。 ☆紙を要求することができたか。	する。 ☆紙ちぎる工程を理解して毎回、取り組めたか。 ○“できました”と T1 の肩をトントン叩いて報告をする。 ●肩を叩くしぐさを示して報告をするように気づかせる。 ☆肩を叩いて教員に報告ができたか。 ○称賛のタッチに応じる。 ●報告ができたならタッチで称賛する。 ●作業の手が止まってしまったら作業に意識を向けられるように紙を差しだしたり、一緒にちぎったりする。 ●生徒 A、B の様子を指さして注目をさせ、今は作業する時間であることを意識できるよう「やるよ」と言葉がけする。 ☆作業する友だちの様子を意識できたか。	・ほうき ・ちりと ・ごみ箱
5分	・片付け、掃除をする。	●班長へ「作業終了」、「片付けましょう」の指示を出すように伝える。 ●タイマーをセットして片付けの時間を示す。	○ちぎった紙をトレイに回収する。 ●トレイにちぎった紙を回収することや道具を元の所に片付けることを伝える。 ○テーブルや床下のゴミを拾ったり、箒ではいて集めたり協力して掃除する。 ●ちりとりを生徒 A に、箒を生徒 B に手渡して二人で掃除するように「一緒に床の掃除お願いします」と言葉がけする。 ○生徒 B が集めたゴミをちりとりで受け取り捨てる。 ☆協力できたか。	○床のゴミを箒で集めて、生徒 A のちりとりに入れる。 ☆協力できたか。	○トレイや紙ちぎりシートを教員と一緒に元の場所に片付ける。 ●片付ける場所まで案内し、所定の位置に道具を置くよう言葉がけする。 ☆指示に応じて片づけできたか。	・作業ノート ・のり ・筆記用具
10分	・作業ノートの記入と本時の振り返りをする。	●タイマーをセットして片付けの時間を示す。 ●作業担当の教員と振り返りを行うことを全体に伝える。	○作業ノートに日付や担当した作業工程を記入する。担当した作業工程に○をつける。 ○作業ノートに目標シートを貼り付ける。本時の自己評価を記入する。 ●適切な自己評価となるように、本時の作業量や評価の項目を一緒に確認する。 ☆成果を確認できたか。	○作業ノートに日付をなぞり書きする。担当した作業工程に○をつける。	○教員と一緒に作業ノートの必要事項をチェックし、達成項目にシールを貼る。 ●「ここはよくできたね」と言葉がけをして達成できた項目を確認し、シールを一緒に貼る。	

			○ノート記入後「お願いします」と伝えて作業ノートをT1に手渡す。	○ノート記入後、作業ノートをT1に手渡す。	☆教員とシールを数えて成果を確認できたか。	
			●生徒の様子を振り返り、主体的に取り組めた場面や作業量、目標が達成できたか等を踏まえて所見欄に総合評価を記入する。 ●記入後、「よく頑張りました」と言葉がけして称賛し、作業ノートを手渡す。			
5分	～～反省会～～ ・挨拶をする。	○班長の「反省会を始めます」の号令に応じて、「お願いします」と挨拶をする。 ●起立をした際に良い姿勢がとれるように言葉がけをする。				
	・本時の成果と感想を発表する。 (代表者:生徒A)	●発表者を指名する。	○「○枚できました」と成果を皆の前で発表する。 ●発表する内容を一緒に確認する。 ☆発表できたか。	○友だちの発表を注目して聞き、拍手で称賛する。 ●拍手をして称賛する姿を生徒たちに見せる。		
	・全体の成果を報告する。 ・挨拶をする。 ・退室する。	●作業工程ごとの作業量をグラフにしてプロジェクターでお投影し、全体で成果を共有できるようにする。 ○班長の号令に応じて「ありがとうございました」と挨拶をする。 ●起立の際に良い姿勢がとれるように言葉がけをする。 ○「お疲れさまでした」と言う、または会釈して退室する。 ●入口ドアに挨拶のイラストを掲示する。一緒に退室し、挨拶の手本を示す。				
						・タブレット ・プロジェクター

8 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

A	・紙を適度な大きさにちぎり、マス目に沿って丁寧に並べることができたか。 【知識・技能】 ・必要な場面で聞こえる声の大きさに要求や報告をすることができたか。 【思考・判断・表現】 ・周囲の友だちの要求に自ら応じて道具や紙を手渡すことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】
B	・紙を小さくちぎり、マス目に収めることが繰り返すことができたか。 【知識・技能】 ・シートのマス目にちぎった紙を並べたら教員に報告することができたか。 【思考・判断・表現】 ・言葉がけを受けて友だちと協力して片づけをすることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】
C	・手元に並べられた紙をちぎることを理解して、ちぎることができたか。 【知識・技能】 ・近くの教員の肩をトントンと叩いて“できた”ことを報告することができたか。 【思考・判断・表現】 ・同じテーブルで作業する友だちの様子を意識しながら自分の担当する作業に取り組むことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 教師の指導の評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態）について

- ・作業に取り組む意欲を高めるために指導の展開や時間配分は適切であったか。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・友だちのがんばりや教員からの評価をやりとりする授業の振り返り場面を設定することができたか。
(思考・判断・表現)

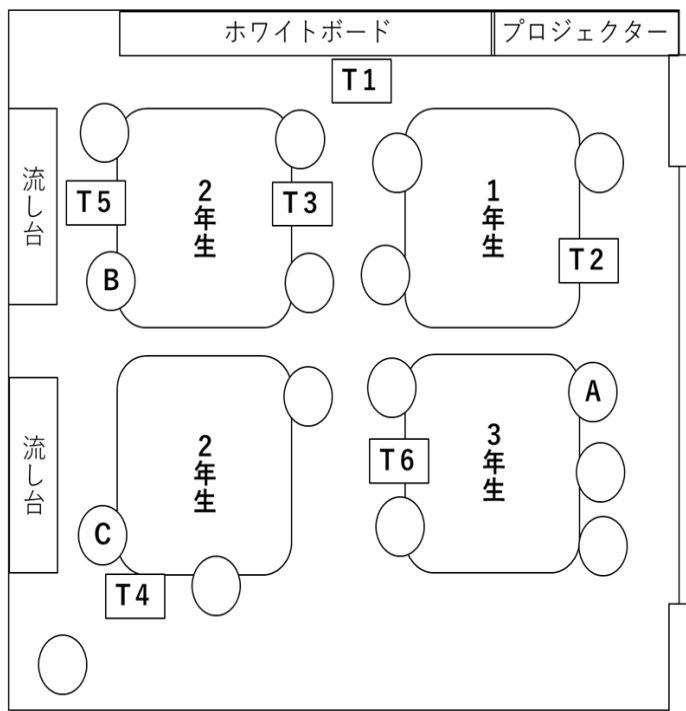
イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・生徒が主体的に取り組めるよう見通しがもてる学習環境を整備できたか。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・生徒の力を引き出すために個に応じた教材教具の活用をすることができたか。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・生徒が活動のなかで友だちや教員と関わったり協力したりする場面を設定できたか。
(思考・判断・表現)
- ・生徒が本時の作業を振り返り、適切な感想や評価を言語化できるようにイラスト等の選択肢を用意することができたか。
(知識・技能)

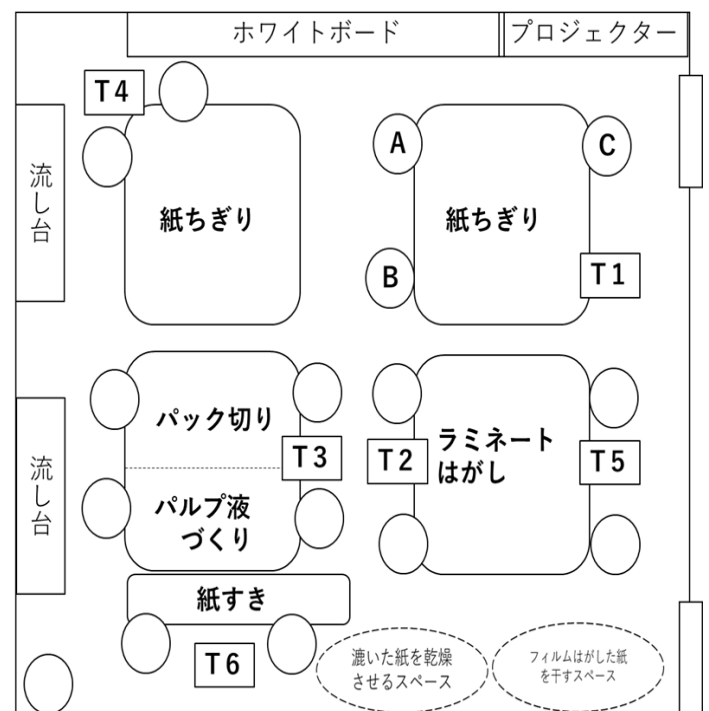
9 備考（配置図、準備物、教材、参考資料等）

【教室内環境図】

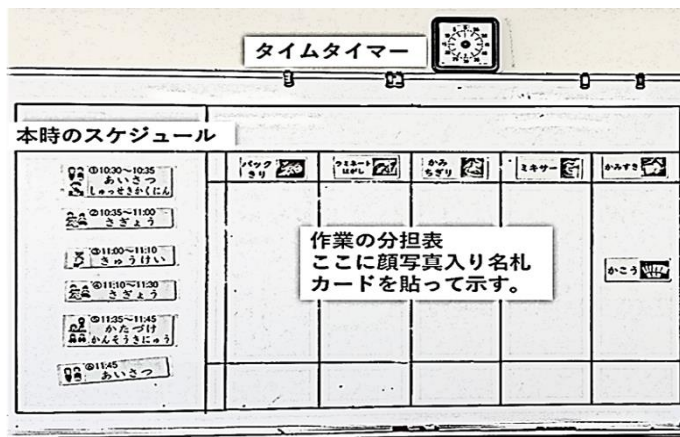
ア 始めの集合時



イ 作業時の配置



○ホワイトボードの活用



○目標シートの活用

教員が生徒から報告を受けて、できているか確認をして数字にチェックをする。

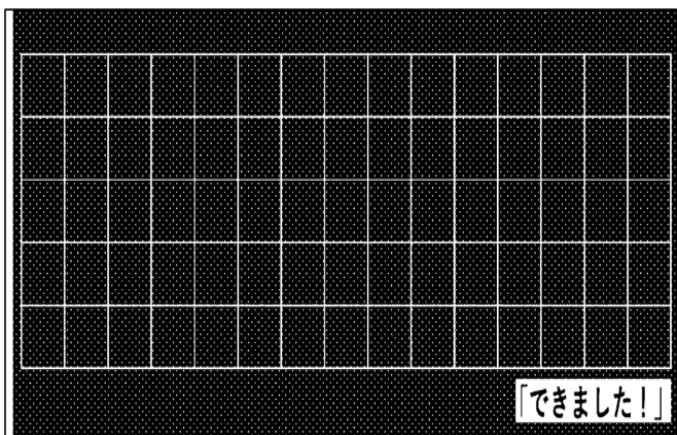
もくひょう		たっせいずう	
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10		

もくひょう		たっせいずう	
8		10	
①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

○紙ちぎりシート

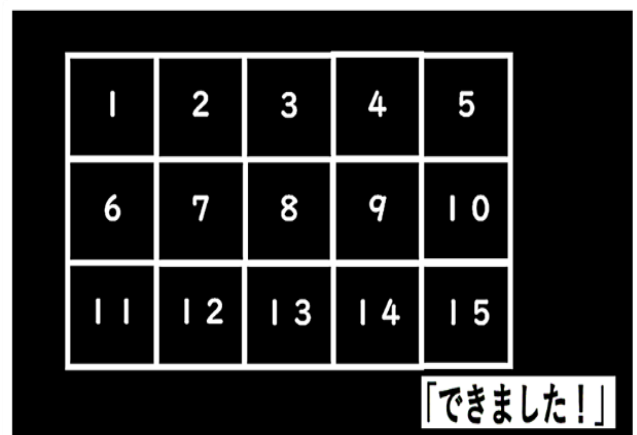
※実態に応じてマスの数や大きさは様々に調整できる。

生徒Aが使用する紙ちぎりシート



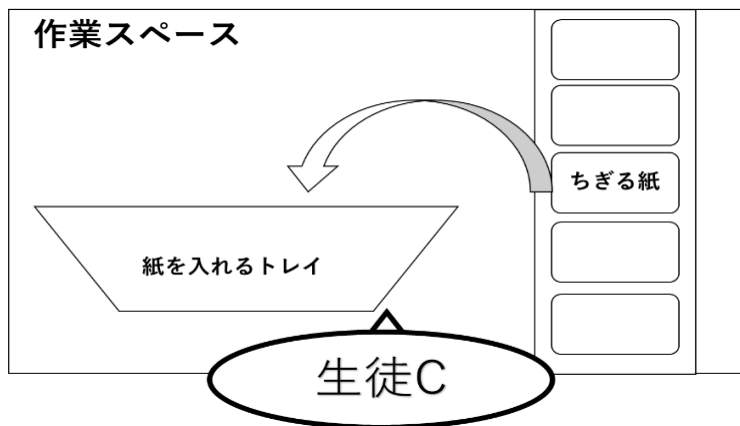
7 5 マス 2 × 2 cm マス

生徒Bが使用する紙ちぎりシート



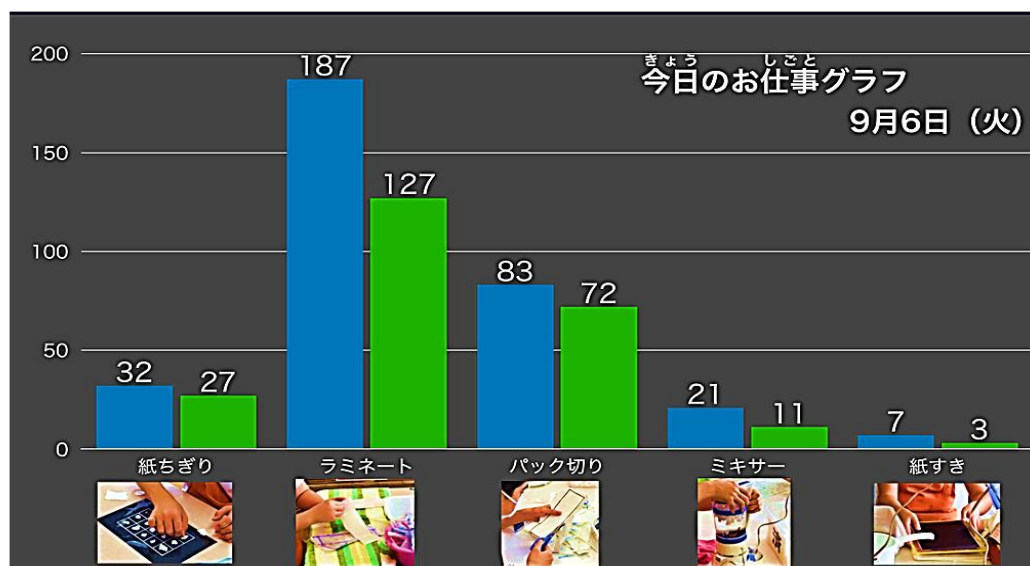
1 5 マス 3.5 × 3.5 cm マス

○生徒 Cの作業スペース



○ICT を活用した視覚支援

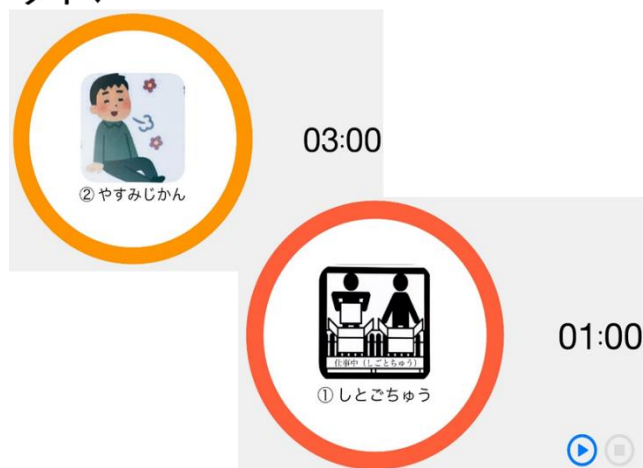
その日の作業量を見える化（グラフ）



反省会にて活用している。各工程の仕事量をグラフにして見える化する。前回の仕事量を比較することができる。全体で成果を共有するツールとなっている。

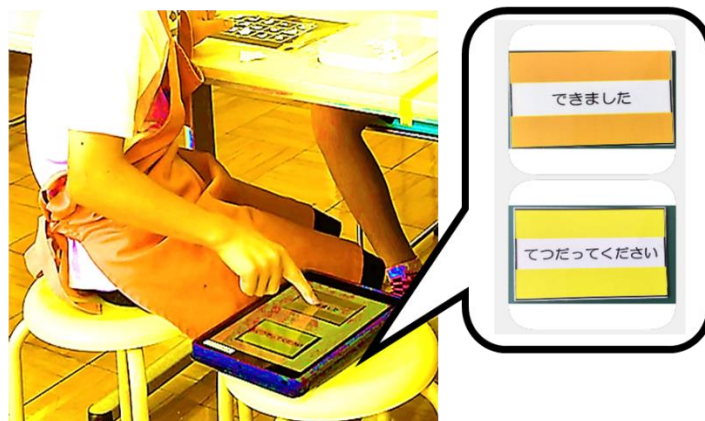
※Keynoteを使用

タイマー



作業時間に見通しがもてるように作業中と休憩中などタイマーを提示している。

音声出力による表出



対象生徒Bはタブレットを使って報告を行っている。

○作業ノートについて

教員と保護者のコメント欄については各種ノートと共通である。
作業ノートを家庭に持ち帰り、保護者にもノートの内容を見てもらい、感想やサインをいただくことで作業学習の取り組みについて情報を共有する。

【作業ノート】※実態別に3種類

- タイプA・・・イラスト中心、なぞり書き
- タイプB・・・一部書き込み式、その他イラストあり
- タイプC・・・書き込み式、文章の記述を読み取り評価する欄

【作業ノートの内容について】

※対象生徒3名の使用するタイプAのノート

- ①日付を記入またはなぞり書きする。
- ②本時で担当した仕事のイラストに○をなぞり書きする。
- ③目標が達成できたか教員と確認して、目標シートを作業ノートに貼り付ける。
- ④教員と確認しながら評価 がんばったことを○で囲む。
- ⑤評価の○が3つ以上で ○できた に○をつける。
○が2つ以下で △もうすこし に○をつける。

【参考資料】

- ・埼玉県特別支援教育課程編成要領（1）特別支援学校編【教育課程編成・指導計画作成のための資料】
- ・「主体的・対話的で深い学び」授業改善チェックリスト15 総合教育センター
- ・名古屋恒彦 著（2018）東洋館出版社 アップデート 各教科等を合わせた指導